

12/3(月) 浜名湖エコワークショップ(浜名湖に漂着する水草)

○現地見学:村檜町のアマモ利用圃場/村檜海岸/舘山寺温泉サンビーチ海岸/
村檜町OMソーラー協会の農地/アマモ利用のこだわり農業圃場

○意見交換:地球のたまご(OMソーラー協会の杜屋)

浜名湖における水草(アマモ・アオサ)が漂着する場所を見学し、その課題や対策を考えました。また、アマモ・アオサを畑の堆肥にして栽培が可能な農地(栽培している農地)を見学して、その実態を知りました。その後、ワークショップ形式による、水草を活用した環境保全活動及び活動団体の連携策について意見交換しました。

村檜の農業の歴史や現状について、NPO法人むらちゃネット杉田理事長からの説明を受けました。次いで、村檜海岸を見学。夏にはアマモが多数打ち上げられますが、冬はきれいになっています。

No.3の地点は、舘山寺サンビーチ海岸です。ここでは、毎年浜松市や観光協会がアマモを回収・処分しています。大雨が降るたびに、海岸はアマモ・アオサで埋め尽くされます。



No. 1 村檜町のアマモ利用圃場 No. 2 村檜海岸(夏はアマモが多数漂着) No. 3 舘山寺サンビーチ海岸

No.4はOMソーラー協会さんが農地を借りて従業員が野菜づくりをしている場所です。この農地でアマモを堆肥にしてもいいという提案も出ました。いいね!

No.5は自然農法で栽培している「こだわり農園」。アマモを山積みにし、栽培している現場を見学。臭いはしませんね。



No. 4 村檜町のOMソーラー農地 No. 2 村檜町の自然農法の農地 No. 3 地球のたまごでの意見交換

【事務局からのお知らせ】

はまなご環境ネットワークでは、活動団体の仲間を随時受付しています。ホームページから登録申請書をダウンロードしていただくか、あるいは事務局までお問い合わせください。

はまなご環境ネットワーク 広報誌

発行/はまなご環境ネットワーク

第17号

発行日/平成24年12月25日

事務局/NPO法人地域づくりサポートネット

浜松市中区常盤町133-13 TEL053-455-0220

Eメール info@shizuoka-t.net

はまなご環境通信

浜名湖の水草(アマモ・アオサ)を活用する試み

浜名湖の周辺は、全国でも屈指の農業がさかんな「農業王国」でした。しかし、高齢化と後継者難で農業をやめてしまった方が増え、耕作を放棄している畑が増加。浜名湖のほとりにある浜松市西区村檜町では、土地改良事業で整備した畑が今では遊休農地となってしまう。地元のNPO法人むらちゃネットさんが所有者から畑を借りて、農業をはじめています。

今回、その農地の一部を使って、「浜名湖エコキッズ体験塾」の参加者が浜名湖のアマモ・アオサを堆肥として野菜の栽培実験を行いました。



アマモを活用して野菜の植えつけ作業

【海草(モク)の活用 今昔物語】

昭和30年代までは、全国各地の海・湖では、海草や海藻(モクといいます)などを採り、畑の肥料として活用してきました。そうすることによって、湖も湖岸もきれいな状態が保てました。当時は大切な肥料ですから、モク採りでは争いごともあったそうです。

高度経済成長期になると化学肥料が普及して、“モク”採りは面倒で、手間がかかるため、次第に採らなくなり、湖の環境にも影響が出ております。



9/8(土)アマモを畑に使う(浜名湖エコキッズ体験塾inむらくし)

■アマモを畑に使う

舘山寺のサンビーチから回収したアマモ・アオサをNPO法人むらちゃネットが借り受けた耕作放棄地となった村櫛町の畑で協働によりアマモ等を肥料にして野菜を植えました。農業による浜名湖の水草を循環する実証実験です。



○と き：平成24年9月8日(土) 9:30~

○ところ：浜松市西区村櫛町の畑(浜名湖ガーデンパーク西側)

■アマモ・アマモ場

NPO法人むらちゃネットのメンバーから作業の指導を受けて、参加者たちは堆肥化したアマモを埋めるための土おこしから始めました。

まずは、アマモを入れ込む溝を掘ります。いまの子どもたちは、日ごろクワなどを使ったこともないので、慣れない手つきですが真剣です。



畑に掘った溝の中にアマモを敷き詰め、上から土を覆いかぶせました。これを「元肥」といいます。今回蒔くのは、大根と白菜の種。子どもたちの多くが種自体を見るのが初めてで、興味津々の様子で、教えられたとおり種を蒔きました。

7月に回収したアマモは、約2ヶ月山積みにしておき、雨で塩分が抜けました。昔もそのようにやっていたそうです(?)。そのアマモを畝(うね)に敷いていきます。みんなで力を合わせて敷きました。これが肥料になる??なんて疑問を持ちながら……。

まいた野菜の種が順調に成長すれば、約3ヶ月で収穫時期を迎えるため、12月~1月には収穫作業を行うこととなります。



最後の仕上げは、機械で均していきます。暑い日でしたが、楽しい経験ができました。

作業のご褒美に浜名湖ガーデンパーク周辺の運河をクルーズ。



●自然のいたずら

大根と白菜は、すぐに芽が出ました。しかし、喜びもつかの間。思わぬ落とし穴が……。

芽が出た直後に台風が浜名湖を直撃。海に近い村櫛の畑は、塩害によって芽が出た半分ほどは葉っぱが傷んでしまいました。農業の難しさ、自然の厳しさを痛感しました。

野菜を間引く「抜き菜」や草取りなど管理もします。さらにそれでもということになって植え直しをしました。



●立派に成長

その後、野菜はすくすく大きくなっています。最初にまいた大根は大きく成長。でも塩害にあった白菜はだめでした。後から植えた大根は成長がイマイチ。植える時期ってものがあるんですね。収穫が楽しみになってきました。